

# アフリカにおける 三菱商事のCSR活動と意義

三菱商事株式会社 これなが かず お  
コーポレート担当役員（企画業務）付上席顧問 是永 和夫



私は、1990－1996年の6年間、2001年－2009年までの8年間の合計14年間、南アフリカに駐在した。特に2回目は、アフリカ大陸全体の監督として23ヵ国を訪問する機会を得た。

アフリカにおいて、本腰を入れてCSR活動をするべきとの考えを持ったきっかけは、2001年4月、南アフリカ着任直後に訪問したモザンビークで、弊社が25%を出資するモザールアルミ製錬プロジェクトの幅広いCSR活動を目の当たりにしたことであった。

また、弊社は2002年、南アフリカにおいてステンレス鋼製造のための主要原料であるフェクロムを製造する鉱山、製錬一貫会社のハーニックフェクロム社のマジョリティー株式を取得し、いわば無限の社会的責任を持って爾来経営を続けているが、私自身も約2年間にわたりこの会社の会長として経営に参画したことでCSR活動はMUSTであるとの確信を持つに至った。

鉱山会社の経営を通じ実感したことは、健全な事業経営は、地域社会の理解を得ない限り実現不可能ということであった。健全経営の大前提は安全であり、そのために、会社は従業員を大切にするだけでなく、その家族、さらには家族の住む地域に至るまでの配慮が必要であること、すなわち地域と共に汗をかき、歩むとの考え方である。

以下、モザールおよびハーニック社のCSR活動を紹介するが、両者共、地域との共生

を前提に行われているものである。

## モザールアルミ製錬プロジェクト

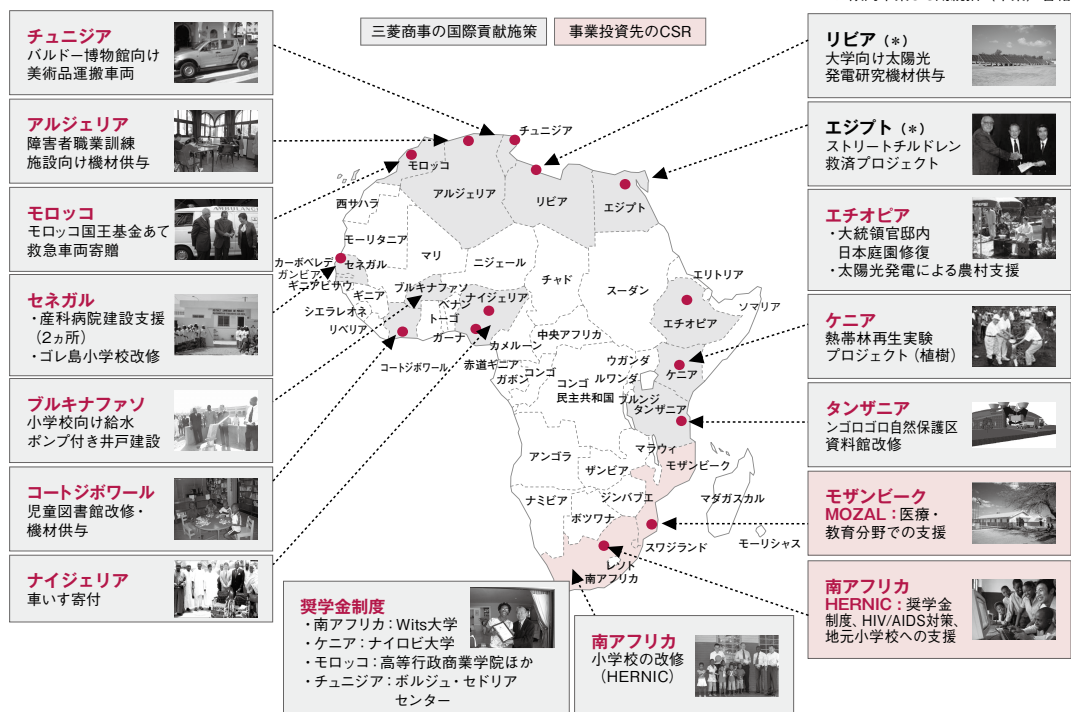
BHP Billiton社が47%所有し運営しているモザールプロジェクトは、もともと何もないサバンナ地域に工場を建設したもので、周辺産業を含め1万人規模の雇用効果を及ぼし、長期内戦で疲弊した同国の経済復興に大きく貢献した。その事業利益から毎年数百万ドルを拠出してモザール地域発展基金を設立の上、CSR活動を進めている。

医療分野ではマラリア・HIV/AIDS撲滅プロジェクト、人材教育分野では、小中学校、職業専門学校の建設および経営、農業振興、小規模ビジネスの振興等、さまざまな分野にわたって幅広く展開している。また、一部の学校では、日本の青年海外協力隊の隊員が派遣され、人材教育の第一線で活躍している。

## ハーニック社

ハーニック社は年間約1億円の予算で、将来鉱山業に進もうとしている地域の若者たちへの奨学金支援、周辺の小学校の整備等、地域コミュニティを積極的に支援するとともに、独自に、HIV/AIDS撲滅プロジェクトを推進している。また、このプロジェクトは日本政府からも資金援助を得ているなど、規模は小さいながらも官民連携プロジェクトの先駆者的存在となっている。

図 わが社のアフリカにおける活動 国際貢献施策



さらに、資料の通り、弊社は、モロッコでの救急車の寄贈、セネガルでの産科医院建設・小学校改修プロジェクト、コートジボワールでの図書館改修プロジェクト、ケニアでの植林、南アフリカ、チュニジア等での奨学金制度等、アフリカ大陸全般にわたり、医療、教育、環境等、各国のニーズに合わせた案件選定を行っており、今後ともさらに充実してゆく所存である。

一方、私が承知している範囲では、南アフリカにおけるトヨタ自動車、プリヂストン、コマツ、ケニアにおける日清食品、タンザニアにおける住友化学、モザンビークにおける三井物産ほか、日本を代表する各企業もそれぞれの立場で、CSR活動を通じ、現地に貢献されていることを記しておきたい。

申すまでもないが、日本企業は、地球の反対側ともいえる遠隔地であるアフリカの軒先

を借りて、ビジネス活動を行っていることに対する感謝の気持ちを忘れてはならない。その感謝の気持ちの具体的な表れの1つが、CSR活動であると考えている。

南アフリカのハーニック社近郊の小学校を訪問するたびに、サッカーボールや文房具を持参するが、受け取る子供たちの喜ぶ表情、輝く瞳が忘れられない。また、奨学金を得た苦学大学生からは次のような礼状が届いたことがある。

「私は貧困が故に医学生になることをあきらめていました。しかし三菱商事の奨学金を頂くことで医者になる夢を見ることができました。ありがとうございました。一生懸命勉強します。」

もうこうなったらやめられない。私たちは今後ともアフリカの地でお世話になりながらビジネス、事業を続けるが、地味ではあってもそれぞれの地域に対する感謝の心を忘れることなくCSR活動を続けていきたいと思う。